

涼をさそう夏の浴衣



最近では夏になるとお祭りや花火大会などで浴衣を目にする機会が増えました。和装の中でも手ごろな値段で楽しめる、着物よりも簡単に着付けできる浴衣は、若い女性を中心に着られるようになり、浴衣の生産は、和装関係商品では唯一増産が続いています。

昔は湯上りに着るものとして、

白地や紺地が主流を占めており、日中人前に着て出るものとは別物と思われてきました。しかし、近年、多彩な柄の浴衣が販売されるようになり、着物の柄に近いものを、襦袢や足袋、帯揚げ、帯締めで正装の着物風に着付けることで、あでかけ着としても楽しめるようになり、浴衣のスタイルも様々に

広がりを見せています。レース風やてぬぐい地の重ね衿をつけたり、帯に飾りの付いたヘアピンを挟むなど自分なりの楽しみ方を考えてみてはどうでしょうか。

浴衣は普通の着物で着るような長襦袢を付けずに一枚で着ますが、お祭りなどで浴衣を着られる場合は透けることや汗をかくこともあ

りますので、浴衣下または着物の肌着と裾よけ、ない場合は丈の長いスリップをつけた方が良いでしょう。また、タオル2枚程度を腰に巻くなど、簡単に体型の補正をしてから着付けをすることで、補正をせずに着た場合より、綺麗に着ることができ、着崩れしにくくなります。男性は帯位置が高いと子どもっぽく見えてしまいます。腰・下腹の位置に帯を巻いて、懐にてぬぐいやタオルを入れておくと、帯がずり上がってきません。また、下駄の鼻緒をきつくないか、前もって調整しておくこと楽に歩けるようになります。

浴衣には暑い日本の夏を快適に過ごすための工夫が染み込んでいます。着物を普段着として着る機会はなかなかありませんが、夏の風物詩である浴衣を入口として、伝統のもの、昔からあるものを目に向けてみてはいかがでしょうか。

緑水湖花火大会や夏祭りなど、イベント盛りだくさんのこれからの時期に、浴衣を着てお出かけしませんか。洋服とは一味違う自分を味わうことができます。